令和５年度の研究（または活動）内容

1）仙台市八木山地域を中心とした活動

・仙台八木山防災連絡会　災害時などの緊急時の連携を強固にするためにも、日頃からの世代間交流、仙台八木山防災連絡会への小中高大などの若者とその親世代の参画が必要とされた。そのため、2023 年度は八木山市民センターらと一緒に行った八木山中学校１年生の防災授業を機に、「地域防災シンポジウム in 八木山」の企画委員の募集を行い、中学生らとの企画運営を目指した（学生参画「世代間交流と防災知識の継承-『防災シンポジウム in 八木山』の企画運営を通して-」八巻竜太朗）。今年度の「地域防災シンポジウム in 八木山」は、Rethink PROJECT×段ボールジオラマ防災授業事務局とも協同で開催し、2024 年 1 月 11 日には郡市長へ表敬訪問し、活動報告も行った。

・八木山まちづくりプロジェクト　並河氏や川名氏の協力のもと、2023 年度も「**仙台市まちなか歩数表示補助事業**」として芦口小学校から緑ヶ丘ルートを小学生らとコース選択やデザインを行い設置したり、これまで設置した表示板やそれらを紹介するマップの活用状況や活用に向けた示唆を得るための調査を行った（学生参画「児童と共にデザインする『仙台市まちなか歩数表示板』」鈴木勇人・「仙台市太白区八木山地域の歩数表示板やマップの活用の現状と課題」長田怜也）。アフターコロナで再開した多世代交流イベント「**みんなのカフェ**」では、高齢者のスマートフォン利用の課題解決に向けた活動も山口氏の協力のもと、実施した。「みんなのカフェ」とは別に、八木山市民センターや八木山地域包括支援センター、山口氏らと「スマホ教室」（2023 年 6 月から 10 月）も実施し調査を行った（学生参画「高齢者のスマートフォン活用時の不安・困難とその対応－仙台市太白区八木山地域で開催されるスマホ教室の参加者を対象として－」角田優介）。2017 年から取り組んできた「**八木山ハーブまちづくり**」は、コロナ前とコロナ禍の活動の振り返りと課題を整理した（学生参画「地域包括ケアを目指したハーブまちづくり活動の現状と課題－仙台市太白区八木山地域の事例に着目して－」庄子夕渚）。

・ございん八木山　井上氏が代表を務める「**ございん八木山**」は、地域拠点としての方向性を探る 2 年目をむかえ、「仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」として協働で活動と調査を実施することとした。菊地教授、坪子氏、佐藤氏らによるウッドデッキ設置などのハード面の整備と共に、手わざ講習会や談話室などのソフト事業も行った。手わざ講習会では手漉き和紙工房潮紙の塚原氏、スマホ教室では山口氏にも協力いただいた（学生参画「支え合いのネットワークを広げる契機となる場所－『ございん八木山』による居場所作りについて－」内ケ崎桃伽）。

2023 年度地域防災シンポジウム in 八木山　段ボールジオラマ

ございん八木山「手わざ講習会：孟宗竹加工」

・八木山地域の空き家空き地調査と利活用検討・全世代型社会保障住まい支援調査委員会などへの参画

2017 年に協働で空き家空き地調査を実施した NPO 法人ワンファミリー仙台を通じ、関連団体の一般社団法人パーソナルサポートセンターより、令和 5 年度厚労省老人保健健康増進等事業　地域共生社会づくりのための「住まい支援システム」構築に関する調査研究事業について相談があった。その事業の採択団体である一般社団法人　北海道総合研究調査会（HIT）の再委託先として、仙台市における「住まい支援システム」構

築のための調査研究を実施する団体として一般社団法人パーソナルサポートセンターが選ばれ、仙台市住宅政策課・社会課・保護自立支援課、そして宮城県住宅課との相談の結果、この事業を八木山地域で実施するというものである。前回の空き家調査から 7 年を経て、空き家の件数や状況は変化していると考えられ、再度、調査を実施することで、防犯対策、空き家所有者の意識や空き家の利活用等のニーズを把握し、今後の八木山のまちづくり施策などに活かせれると考えた。本研究所は調査委員会を組織し、アンケート調査等の設計、集計と分析、空き家の利活用の提案を含めた最終報告書の作成を行った。

2) 仙台市秋保地区を中心とする活動

・野尻いぐする会（野尻町内会） 高齢化率の高い地域のため、感染予防を厳守しつつ、with コロナ時代を見据えた地域内外交流事業を、身の丈に合った持続可能な活動となるよう意識しながら交流活動を再開し始めた。2023 年度は「川遊び体験」「農業体験」「そばまつり」などの支援を行った。

・「秋保くらしの座談会」事業 2022 年度より仙台市社会福祉協議会太白区事業所と秋保総合支所保健福祉課と連携し、秋保地域住民の抱える課題を住民と支援機関が共有し、その解決のために住民が主体的に共に取り組めることを考える事業を開始した。2023 年度は、馬場連合町内会、秋保連合町内会、湯元連合町内会ごとに、具体的な活動に向けてワークショップや打ち合わせなどを行い、馬場連合町内会「錦秋の馬場路を歩こう」（ウォーキングなど）、秋保連合町内会「ひだまり縁側」（旬の食や歴史文化を学ぶ）、「秋保カフェさございん」（移動図書とモルックやカフェの同時開催）などが行われた（学生参画「仙台市太白区秋保地域を対象とした住民主体の地域づくりプロセスに関する研究」瀧澤諒）。

・シンポジウム「これからの地域のくらしと工芸」vol.4 手しごと AKIU からの提案「KURA－HAKU」～泊まりながら手しごとを体験するプログラムを探る～

手しごと AKIU は、手しごとの異業種集団であり、業種は「工芸」・「食」・「農業」・「観光」にいたるメンバーで構成され、集客・交流を図る活動を基本に「工芸のまち・秋保」つくりを目指している。秋保で手しごとのワークショップを中心とした滞在型・周遊型の宿泊体験プログラムなどの提案について意見交換を行った。シンポジウムでは秋保温泉旅館組合 組合長の佐藤勘三郎氏、旅館大沼湯守の大沼氏、東北工業大学の菊地教授の話題提供もあった。

住民主体のまちづくりワークショップ「秋保くらしの座談会」

ワークショップから実際の活動へ「錦秋の馬場路を歩こう」

3) その他の活動

(1) 長町つながるミーティング

仙台市社会福祉協議会太白区事務所、長町地域包括支援センター、太白区役所の主催により、地域における支え合い体制づくり推進のための勉強会が 2023 年度より開催された。新旧住民が暮らす長町地区の住民が自分たちの住む地域を知り、安心して暮らし続けることができる町にするために、長町の将来像や、地域のニーズや課題に対して、地域で取り組めることを考え、共有することで、様々な主体による支え合いの重要性について理解と関心を深めることを目的に開催された。2021 年に本研究所も協働で行ったアンケート調査のフィードバックも行いながら、ワークショップ開催時には学生らも参画をした。

(2) 六郷小学校健康保健授業への参画

六郷地区は幼少期からの肥満の割合や成人期の生活習慣病の有所見の割合が特に高いことから、六郷地区のあらゆる世代の健康向上に向けて、住民や地域の団体が地域の中で実践できることを目指した健康づくり啓発事業を実施している。そのうち、六郷小学校を対象とした保健授業に参画した(学生参画「小学生が認識する生活習慣病とその対策　ー仙台市若林区六郷小学校の保健授業と通してー」本間耀)。

(3) 登米市津山町「道の駅津山もくもくランド」を中心とする活動

「道の駅津山もくもくランド」は、令和元年東日本台風による豪雨被害を受け、2023 年 1 月に改修した元の店舗で営業再開した。2022 年度に店舗レイアウトなどの再開準備に向けた事業や 2021 年度の道の駅津山「もくもくランド」復興活性化構想策定(グランドデザイン策定)を受け、2023 年度は空きスペースのための子ども向けの遊具や玩具を検討した(学生参画「地域資源を活用と木育を考えた子どものための木製遊具制作」及川瞬,「乳幼児のための木製玩具制作」高橋享佑)。外構の植栽整備も行った。

(4) 「ボランティア活動の連携・協力に関する協約（パートナーシップ協約）」締結大学合同交流会

地域福祉活動におけるボランティア活動を組織的・継続的に進めるため、パートナーシップ協約締結大学と仙台市ボランティアセンターの活動状況の共有をするとともに連携した事業を取り組むための交流会が開催された。八木山地域や秋保地域の活動を発表するとともに、学生が大学のサークルなどから広がった活動も報告した(学生参画「子どもの川遊びに潜む危険を可視化ー河川での自然体験学習に着目してー」塚邊駿)。

(5) 秋岡芳夫・時松辰夫の継承協議会(仮)

4月オンライン会議、6月大分県立美術館とのオンライン会議、8月熊本県伝統工芸館にて東北工業大学連携協力協定事業として「北のクラフト展 2023～秋岡芳夫と時松辰夫のキセキ～」としてみやぎ地場産品開発流通研究会らと展示会とシンポジウム開催、12 月オンライン会議、3月「アトリエとき」に地元新聞社(大分合同新聞)の取材要請もあり、継承会を「リレートーク:時松先生について語ろう」で実施した。

(6) 第 9 回東北工業大学製品安全シンポジウムの開催

2024 年 3 月 2 日に「PL 教育のこれまでとこれから」としてオンライン開催した。東北工業大学においては、2010 年に PL（製造物責任）の授業を開始し、2014 年に第 1 回製品安全シンポジウムを行い、10 年の節目を迎えたこともあり、今までの内容を振り返り、実際に企業(建設業・製造業・流通業など)で働く方と共に今後の PL 教育の重要性や達成すべき課題を考えた。実行委員長の中島氏と PL 対策推進協議会理事の 菅野氏の話題提供のあと、パネリストには、PL 対策推進協議会インストラクターの古森氏、元株式会社アイリスオーヤマ応用研究所所長の川名氏、清水建設株式会社東北支社支店長の清水氏にお集まりいただき、ファシリテーターの菊地教授によるディスカッションも行われた。

(7) 岩手県洋野町「おおのキャンパス」活性化に向けた会議

現在、洋野町「おおのキャンパス」について、使用方法の変更等により遊休施設や利用率の悪い施設等も発生しており、施設改修を含めた再編・再生に関する相談が洋野町役場地域振興課からあった。これは、1978年から東北工業大学 第三生産技術研究室が旧大野村で関与した『裏作工芸導入による実践的研究「一人一芸の村づくり」』から始まるものである。「おおのキャンパス」のソフト・ハードの両面の諸課題調査及びその解決策を探りつつ、具体的な再生の途を描くための、活性化に向けた構想策定事業となる。令和6年度からの本学との委託事業となる予定である。